

氏名（本籍）	や た ふ み ゑ 矢 田 フ ミ エ （山口県）
報告番号	甲第14号
学位の種類	博士（健康福祉学）
学位記番号	健康福祉博甲第14号
学位授与年月日	2018（平成30）年3月20日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当（課程博士）
学位論文題名	看護学生のリフレクションを活性化させる 教育方法の創出
論文審査委員	主査 教授 田中 マキ子 副査 教授 長坂 祐二 副査 教授 横山 正博 副査 准教授 佐々木 直美

論 文 要 旨

看護実践能力の育成には、看護職者が自らの看護実践を批判的に問い直し、継続的に学び続けることが重要であり、近年、経験からの学びを明確にする学習ツールとしてリフレクションが注目されている。しかし研究の多くが、リフレクションの活用の実践報告に留まり、効果的な教授方法の開発には至っていない。学生のリフレクションを促すためには、教員の働きかけの重要性は示唆されているが、どのような働きかけをすればリフレクションが刺激されるのかについては課題が多い。そこで本研究は、教育方法として教員の発問に焦点を当てて、リフレクションを活性化させるための発問ガイドの構築を目的として、5章で構成した。

第1章ではリフレクションが看護に導入された歴史と看護教育における研究を概観した。そこでは、多くがGibbsのリフレクティブ・サイクルによる学習方法が用いられており、その効果が報告されていたが、教員の発問と学生の思考プロセスについては明確にされていない課題が浮かび上がった。

第2章では教員が通常の発問からリフレクションを意識した意図的な発問に変化させることで学生のリフレクションは刺激されることがわかった。教員は学生の関心事に注目して、

学生の感情や思考、行動の根拠を問う「疑問」「問い合わせ」の発問を繰り返すことがリフレクションを引き起こす上で有効かつ効果的な方法であることがわかった。

第3章では、効果的な発問ガイドを作成し、専門学校生と看護大学生の各10名に、看護実習後にリフレクション面接を行った。その結果、専門学校生は全員が、看護大学生は8名が、深さには差があるものの、リフレクションを成立させることができた。さらにより確実にリフレクションが成立出来るように、発問ガイドを検討し修正を行った。

第4章では、学生が取り上げたエピソードにおいて特徴的なポジティブとネガティブな感情の事例をもとに、発問ガイドの活用を検討した。学生が取り上げた印象場面とは異なる様々な場면을想起させ、分析することで、実践を再評価することができた。発問ガイドを用いることで、「印象場面の想起」と「実践の問い直し」を行き来しながら「今後の行動計画」へと、リフレクションを成立させることができた。

第5章では、筆者以外の教員による発問ガイドの有効性を検証した。1名の教員と2名の学生の検討という研究の限界はあるものの、リフレクションを成立させることが出来、発問ガイドの妥当性を確認した。

総合的考察として、学生の個別で主体的な学びを支援する看護教育において、教育方法としての発問ガイドの意義と今後の活用を考察した。発問ガイドは構成主義に基づいて開発された、看護学生のリフレクションを活性化させる新たな看護教育方法論としてまとめた。

Abstract

Creation of Educational Methods to Stimulate Nursing School Students' Reflection

In order to develop nursing practice skills, nurses must critically re-examine their own nursing skills and continuously learn. One of the learning tools, reflection, has recently attracted attention as a tool to examine what has been acquired from experience. However, many of the studies have merely reported the results of the utilization of reflection, and effective instructional methods have yet to be developed. The effectiveness of the teacher's approach has been suggested to promote the student's reflection, but there have been a number of issues to be addressed as to what approach will effectively stimulate reflection. Composed of

five chapters, this study focuses on how the teacher should question as an educational method and aims to establish a question guide to stimulate reflection.

Chapter One is an overview of the history and introduction of reflection in nursing, as well as studies of reflection in the education of nursing. While many of the studies focus on the learning methods founded on Gibb's reflective cycle and their effectiveness, the teacher's questioning and the subsequent thinking process of the student remain unclear.

In Chapter Two, it is discovered that questions intentionally focusing on reflection, in place of normal questions, asked by the teacher, will stimulate the student's reflection. For an efficacious method to evoke reflection, the teacher is to take notice of the student's interest and repeatedly ask to clarify "doubts" and make "inquiries" to question the bases of the student's emotions, thoughts, and actions.

For Chapter Three, a more effective questioning guide was created. Ten technical school students and ten nursing university students were interviewed for reflection after nursing practice classes. As a result, all of the technical school students and eight of the university students successfully established reflection in varying degrees. The question guide was reviewed and revised for better and more secure reflection.

For Chapter Four, the use of the question guide was studied based on the two different types of cases that students presented that focused on distinctive positive and negative emotions. The practice was re-evaluated when the students were encouraged to present and analyze various scenarios different from the cases they had brought up. The use of the question guide successfully promoted the students' establishment of reflection through the activities of "presentation of image scenarios" and "questioning of practice" repeatedly and then of "future action plans"

For Chapter Five, the effectiveness of the question guide was verified by a teacher other than the author. While the interview conducted by one teacher with two students only generated limited study results, reflection was successfully established. The effectiveness of the question guide was thus demonstrated.

For comprehensive discussion, the educational significance and further utilization of the question guide as an educational method in the education of nursing for promoting students' individual and voluntary learning was discussed. The question guide was compiled as a new nursing education methodology, developed from a constructionist perspective, to stimulate nursing students' reflection.

審 査 結 果

矢田氏の論文は、教員の発問に焦点を当て、学生のリフレクションを活性化させるための教育方法を見出すことを目的としている。

看護師として養成される課程にあつて、学生には、看護師として適正な立ち居振る舞いや態度、関心や意欲・思考力・判断力等が求められる。立ち居振る舞いや態度は行動として評価されやすいが、関心や意欲・思考力・判断力等は行動として示されにくく見えない学力であるため、これまでの行動主義的な捉え方ではなく構成主義に基づく教育方法が重要であると主張し、学生自身の行動や思考を問い続けるリフレクションに関し、教育方法として確立する必要を矢田氏は指摘する。

本論文は5章で構成されている。第1章では、リフレクションが看護に導入された歴史と看護教育に関する研究を概観している。看護教育に用いられているのは、Gibbsのリフレクティブ・サイクルによる学習方法が多く用いられているが、リフレクションに影響を及ぼす教員の発問と学生の思考プロセスの変化については検討されていないことを言及した。

2章では、教員の発問を意図的に構成することで、学生のリフレクションが刺激されるか否かについて検討し、教員の意図的な発問は学生の感情や思考、行動の根拠を問う「疑問」「問い合わせ」を引き起こすことに効果的であることを示した。

3章では、確実にリフレクションが起こるか否かについて、複数の学生に対し検証を行い、教員の発問ガイドを検討すると共に、発問ガイドの改編を図った。4章では、

学生の傾向がポジティブとネガティブに大別される傾向があることから、様々な学生の状況にも適応できる発問ガイドとするため、発問ガイドの精度を検討し、「印象場面の想起」と「実践の問い直し」を効果的に引き起こせる発問ガイドへ修正した。

最終章では、発問ガイドの完成度を検討するために、発問者である教員を変え検討した結果、学生のリフレクションは効果的に起こり、本発問ガイドの有効性・普遍性が確認され、看護学生のリフレクションを活性化させるための発問ガイドを完成させ、もって教育方法の創出を図った。

矢田氏の論文は、複数回の検討から、看護学生のリフレクションを活性化させるための完成度かつ実用性の高い発問ガイドを明らかにしたが、その使い方については、もう少し詳細な説明が必要であることや、複数人の教員による検証が必要であるなど、発問ガイドの精度を確認するための、検証の不足が指摘された。しかし、本研究で明らかとなった発問ガイドは、テキスト等とし広く普及するに値する水準であり、本研究の意義は大きい。

以上より、矢田フミエ氏の研究は、今後の健康福祉学領域に対し、独創的かつ応用可能な知見を提示したものとして評価できる。

氏は、独立した研究者として、今後の活動を担える研究段階に達したと判断し、審査委員会の田中マキ子、長坂祐二、横山正博、佐々木直美は、矢田フミエ氏の博士論文を合格と判定する。